

単元名

せかいで ひとつ わたしの おもちゃ

教科書 下巻 p.60 ～75 単元の配当時間 13 時間／活動時期 9 ～10 月

単元の目標

身近にある物を使って動くおもちゃを作ったり遊んだりする活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出すことができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
いろいろ ためして あそんで みよう（2時間） 素材遊びを通して、さまざまな素材の特徴を予想したり、確かめたり、遊び方を工夫したりすることで、その素材のもつ面白さや不思議さに気づき、進んで遊びを考えることができるようにする。	知	身近にある物を使って遊ぶ中で、素材のもつ面白さや不思議さに気付いている。	さまざまな素材で十分に遊ぶ中で、「丸い物は、転がして遊ぶことができるね」「磁石はくっつくものとくっ付かないものがあることを見付けたよ」など、素材の形や特徴の違いに気づき、それを生かした遊び方をしている。	●進んで活動に取り組んでいたとしても、素材の面白さや不思議さへの気付きは無自覚であることが多い。そのため、活動時に、素材の特徴に気付いている子どもの発言を教師が価値づけたり、気付きを共有したりする場面を設定することで、素材の特徴を自覚できるように支援する。
	態	身近にある物でできそうな遊びについて進んで考えようとしている。	「ペットボトルのキャップはよく転がるから、これを車輪にして車を作りたいな」「磁石って面白いね。これを使って、魚釣りができないかな」など、集めた素材の特徴を生かして、進んで自分のおもちゃを作りたいという思いを表現しようとしている。	●1年生のときの「秋のおもちゃ作り」の体験を想起させることで、進んで活動に取り組むことができるように支援する。
自分で おもちゃを 作って みよう（2時間） おもちゃの動きを予想したり、確かめたり、見直したりしながら、材料の特徴を生かしておもちゃを作る中で、おもちゃの動きの面白さや不思議さに気付くとともに、自分の作りたいおもちゃを作るために粘り強く取り組むことができるようにする。	思	おもちゃの動きを予想したり、確かめたり、見直したりしながら、おもちゃを作っている。	「空気ロケットの作り方を調べてみると、空気が抜けないように工夫することが大切だとわかったよ」「今日はうまく飛ばなかったから、次はゴムを付ける場所を変えてみようと思います」など、見通しをもって、繰り返し試しながらおもちゃを作っている。	●教科書下巻p.72～73の「おもちゃの 作り方」を参考にしたり、友達と相談し合ったりするように助言することで、見通しをもっておもちゃを作ることができるようにする。
	態	自分の作りたいおもちゃを作るために、友達と交流したり、試行錯誤したりしながら、粘り強く取り組もうとしている。	「〇〇さんのロケットは、高く飛んですごいと思いました。私も、もっと高く飛ばせるように頑張りたいです」「初めはうまく動かなかったけれど、〇〇さんのおもちゃを見て、ゴムを付ける場所を変えたらうまく動いたよ」など、友達のおもちゃのよいところを参考にして、互いに働きかけ合いながら進んでおもちゃを作ろうとしている。	●おもちゃをどう工夫すればよいか困っている子どもには、友達のようなすを紹介したり、教科書下巻p.73の「作り方の 動画」を参考にしたりするように声をかける。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
<div>パワーアップ 大作せん</div> <div>（3時間）</div> <div>自分のおもちゃの課題を見付け、繰り返し試したり、友達のよさを取り入れたりする中で、自分がおもちゃに加えた工夫とおもちゃの動きの関係性に気付くとともに、よりよいものにしようという思いをもって、おもちゃを工夫することができるようにする。</div>	知	自分がおもちゃに加えた工夫と、おもちゃの動きの関係性に気付いている。	「風を強くあてると動きが速くなったよ」「ゴムを2重にするとゴムの力が強くなって、遠くに飛んだよ」など、自分が工夫したことと、それに伴う動きの関係に気付いている。	●「もっと高く」「もっと速く」「もっと遠くに」など、改良したい視点を事前に意識させてから制作にあたることで、自分が工夫した点と、それに伴う動きの変化を関係づけて考えられるように支援する。
	思	自分と友達のおもちゃの動きを比べたり、いろいろな方法を試したりしながら、よりよいおもちゃを作るための方法を考えたり、おもちゃを改良したりしている。	「うまく進まなかったのは、風があたるところが小さかったからです。大きなトレイに付け替えたなら速く進んでうれしかったよ」「〇〇さんに教えてもらったように、ゴムの数を増やしてみたら、もっと高くジャンプしたよ」など、自分のおもちゃをよりよくするために、見通しをもって情報を集めたり、友達のおもちゃと比べたり、何度も試したりしながらおもちゃを作っている。	●作ったおもちゃで友達といっしょに遊ぶ時間を確保し、自分のおもちゃで友達に遊んでもらったり、友達が作ったものと比べたりして、新たなアイデアや改善する方法を見付けられるようにする。
	態	自分のおもちゃをよりよくするために何度も試したり、友達の工夫を見付けたりしようとしている。	・「車輪を工夫したら、たくさん進むようになったよ。もっと工夫できないかな」など、自分のおもちゃをよりよくするために、本で調べたり、より詳しい人に聞いたりして、何度も試しながらおもちゃを改良しようとしている。 ・「〇〇さんの工夫はおもしろいな。いっしょに競争してみたいな」など、友達のおもちゃの工夫したところを見付け、進んで交流しようとしている。	●一度出来上がったならそれで満足してしまう子どもには、「もっと遠くまで走る車にするために、どうすればよいかな?」「友達はどんな工夫をしていたかな?」などと問いかけ、繰り返し試したり、友達と比べたくなるような声かけをする。 ●写真や動画を活用して、前のおもちゃのようすと今とを比べさせたり、友達のおもちゃの工夫した点を提示したりして、自分自身や友達の頑張りを捉えられるようにし、活動への意欲を高める。
<div>あそび方や ルールをくふうしよう（3時間）</div> <div>遊び方やルールを改良したり、表現したる中で、遊び方やルールを工夫することでみんなで楽しく遊ぶことができるようになることに気付くとともに、友達と協力しながら遊びを創り出すことができるようにする。</div>	知	遊び方やルールを工夫することで、遊びが楽しくなることに気付いている。	友達と遊び方やルールの工夫を話し合ったり、お互いに協力しながら準備したりすることが、より遊びを楽しむことにつながることに気付いている。	●おもちゃの遊び方やルールのイメージがもてるように、これまでのおもちゃ作りの活動の中で、遊び方やルールを工夫して遊んでいる子どもの姿を写真や動画などで紹介する。
	思	みんなで楽しく遊ぶことを思い描きながら、遊び方やルールを改良したり、表現したりしている。	「1年生が投げるなら距離をもう少し短くした方がいいね」「たくさんの人に遊んでもらいたいから、もう少し数を増やした方がいいかな」など、招待する人のことを意識しながら、みんなで楽しく遊ぶためのよりよい遊び方やルールを考えたり、試したり、表現したりしている。	●招待する人のことを意識しながら遊び方やルールを工夫している子どもの発言や準備をしている子どもの姿を称賛し、全体に広げるようにする。
	態	遊びをもっとよりよくしたいという思いをもって、友達と協力しながら遊びを創り出そうとしている。	「〇〇さんは、1年生が楽しめるルールを考えていました。私はそんなことを思いつかなかったから、すごいと思ったよ」「今日は〇〇さんといっしょに得点板を作ったよ。たくさんお客さんが来てくれるとうれしいな」など、友達と関わったり、話し合ったりしながら、遊びを創り出そうとしている。	●一人ひとりが責任をもって活動に取り組むことができるように、自分たちで役割を決めるように促す。 ●ほかのグループの遊びを体験したり、参考にしたりしながら、遊び方やルールを工夫するように声をかける。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
みんなで 楽しく あそぼう （3時間） 自分の作ったおもちゃで遊んでもらう活動を通して、みんなで遊ぶことやおもちゃを作ることの楽しさに気付くとともに、みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、これからの生活に生かすことができるようにする。	知	みんなで遊ぶことのよさやおもちゃを作ることの楽しさに気付いている。	「いろいろなおもちゃがあったけれど、どれも面白い工夫があって驚きました」「みんなで競争して遊んだり、友達と協力してルールを考えたりすることができて楽しかったよ」など、おもちゃを作る楽しさだけでなく、遊び自体を創り出すことの楽しさや喜びに気付いている。	●子どもが作ったおもちゃのよさや、子どもの頑張りを価値づけたり、友達同士で相互評価を行う場を設定したりして、自分の学びを肯定的に捉えることができるように支援する。
	思	遊びを工夫したり、友達と楽しく遊んだりしたことを振り返り、表現している。	これまでの活動の記録（記録カードや写真、動画など）をもとに自分の活動を振り返り、おもちゃがよりよいものになったことや、友達と協力しながら楽しい遊びを創り出してきたことなどを思い起こしながら、工夫したことや楽しかったことを表現している。	●自分自身の活動を振り返ることができるように、これまでの活動の写真や動画を提示して価値づけたり、かきためた記録カードや撮影した写真、動画を時系列順に並べるなど、情報の整理のしかたを伝えたりする。
	態	みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、これからの生活に生かそうとしている。	「自分の作ったおもちゃで遊んでもらってうれしかったよ。もっといろいろな人にも遊んでもらいたいな」「初めはうまくいかなかったけれど、何回も試したらうまくできるようになりました」など、これからの生活を自分たちの工夫でより楽しく、豊かにしていこうという思いを発言したり、記録カードにかいたりしている。	●子どもの頑張りを板書で整理することで、みんなで遊びを創り上げた達成感を感じられるようにするとともに、友達や自分自身の成長にも目を向けることができるように支援する。